

## 論 文 要 旨

### Obestatin, Acyl Ghrelin, and Des-acyl Ghrelin Responses to an Oral Glucose Tolerance Test in the Restricting Type of Anorexia Nervosa

〔神経性無食欲症（制限型）の患者におけるオベスタチン、アシルグレリン、デスアシルグレリンの経口糖負荷試験に対する反応〕

原田 敏郎

#### 【序論および目的】

近年、グレリンと同じ遺伝子から産生されるオベスタチンという新しいペプチドが発見された。オベスタチンは摂食抑制作用、胃蠕動運動抑制作用など、グレリンとは反対の作用をもつと報告されている。今回、我々は神経性無食欲症（制限型）の患者において、オベスタチン、アシルグレリン、デスアシルグレリンを同時に測定した。

#### 【材料および方法】

加療目的で当科に入院した神経性無食欲症（制限型）の患者10名、健康な女性10名に対し、書面によるインフォームド・コンセントを行い、同意が得られた方をそれぞれ患者群、コントロール群とした。被検者に対し、一晩の絶食後、経口糖負荷試験を施行し、負荷前、負荷後30、60、90、120分後に採血し、オベスタチン、アシルグレリン、デスアシルグレリンの反応を調査した。

#### 【結 果】

血漿オベスタチン、デスアシルグレリン値に関しては、糖負荷前、負荷後共にコントロール群に比して患者群で有意に高く、また糖負荷後は両群共に有意に抑制された。血漿アシルグレリン値に関しては、負荷前、負荷後90、120分は患者群とコントロール群で有意差はなかったが、負荷後30、60分では患者群において有意に高かった。また、3つのホルモンのAUCの比較においては、いずれも患者群で有意に高かった。

#### 【結論及び考察】

今回の研究で、神経性無食欲症（制限型）の患者において、血漿中のオベスタチン、アシルグレリン、デスアシルグレリン値が、経口糖負荷試験全体を通して健常群より有意に高く、糖負荷によって有意に分泌が抑制されるということがわかった。これらのホルモンのグループ間の差異は、オベスタチンにおいて最も統計的に有意であったことから、オベスタチンは神経性無食欲症（制限型）の患者において、栄養状態の急性及び慢性の変化を反映する指標となり得ることが示唆された。